

（略）昭和22年3月、教育基本法と学校教育法が公布され、いわゆる新学制の6・3制が確立し、それまで6年の義務教育が一挙に欧米先進国並みの9年に延長して、新しく「中学校」という終戦子が生まれたわけである。今日ではあまり使われなくなったが、当時は旧制5年制の中学と区別するために、もっぱら「新制中学校」と呼んでいた。

正式には22年5月1日から全国一斉に義務教育の中学校が発足したのであるが、たいいていの町村では4月の始めから国民学校初等科の卒業生と高等科1年修了生とを収容して、小学校の中に白線帽子を被った中学生を同居させることになった。

#### 常呂中学校の創設

（略）私が赴任したのは5月12日で、仮校舎に充てられていた常呂小学校の児童昇降口脇にあった老木の桜の先にちよっぴり満開の花を咲かせて私を歓迎してくれたのは、今でも強い印象として残っている。校長不在1ヶ月あまりの間、専任の先生は加瀬谷・浜田・瀬越3名が村役場の議事堂を借りたり、雨漏りのする小学校の物置小屋を利用したり、議会の長机や小学校の廃棄機を応急処理したものを使って、3年生15名と2年生40名、1年生80名ほどの教育に当たったというのがそもそもの発端である。

私が赴任して2、3日目であった。すでに中学校敷地候補として話題が上がっていた土佐原野の一角を役場の善積教育主任の案内で実地検分に出かけた。一部は畑として拓けていたが、ほとんど一面枯れ草の荒れ野、元競馬場跡だったという。

北面は広葉樹の繁茂する砂丘を風防とし、南方は遠くイワケシユ山の裾野に続く沃野が開け、西は2線の大風防林、東に神社の丘陵まで続く市街地の屋根屋根が見えるという雄大な自然に恵まれ、浩然の気も養い、育英の場としては理想的な環境であると判断した。

\*注：常呂中学校の敷地は、土佐2番地、現在の町民センター（スポーツセンター・旧カーリングホール・グラウンド）

それからこの場所を敷地とする世論も次第に高まり、校地4町3反3畝6歩、それに国道を挟んだ向かいの実習地（将来の教員住宅用地の見通しも含めて）5反歩、合わせて5町歩近い敷地獲得運動の方針が立てられた。

新学制が敷かれていち早く敷地の見通しが立ったということは、文字通り常呂中学校の基盤ができたということだ、これはひとえに一致した世論の盛り上がりと小林村長を中心とした理事者側の熱意の賜であると思う。

しかし、現実には有るものは百数十名の生徒だけで、あつは無いものしつて、教室はない、職員室はない、職員室は小学校の職員室の片隅に同居、机、腰掛けを始め何一つ教具も無い、先生も足りない、PTAもない、私の入れていただく住宅さえ、ようやく鈴木助役の入っていた6畳2間の2軒長屋の1つを譲っていただいたのはありがたかったが、引越越し荷物の納め場がなく、小学校の木炭小屋を空けてもらって入れて置いたところ穴だらけ

の屋根で（当時はそれを補修する資材も予算もなかった）ひと夏雨ざらにして、箱詰めの本や書類をほとんど濡らしてしまったことなど、今はもう懐かしい思い出として心の隅に残るだけである。

けれども建設計画は進んだ。まずPTAが組織され（注：昭和22年6月17日設立）、松平慶顕氏が初代会長に選ばれ、会長自ら陣頭に立って涙ぐましいほどの協力的体制が整った。7月1日にはPTAの力で開校式を挙げてもらうことができた。小学校の体育館を会場に、この日を喜び合う父兄や町の人でいっぱい、貝殻の皿に盛られた帆立の刺身、4斗樽に2つも用意されたどぶろく、少々酸っぱくなった味が印象に残る。

8月の夏休み中には小学校の体育館を仕切って4つの教室ができた時の生徒たちの喜びようは非常なものであった。秋の末までには苗圃の前に15坪の校長住宅も建てていただいた。

翌23年には小学校に1教室増築してもらって、こども使わせてもらった。秋には小学校PTAの協力も得て教員住宅が4戸新築されて先生の住宅難も一応緩和された。

この年、予定の校舎敷地も関係方面の深いご理解と村当局の努力により本決まりとなり、いよいよ明春雪解け早々地ならしし、工事をやるうとうとところまでこぎ着けた。

幾枚も理想の校舎図を描き、敷地の配置図を書き直してみたのもこの頃であった。一番一番感謝に堪えなかったことは教育の理想の第1案、第2案は受け入れなかったにしても、建築に素人である経営者の意見を謙虚に耳を傾けられて設計に取り入れていただいたということが、ちょっと他の町村には見られない美しい協力だったと思う。

#### 新校舎落成

昭和24年、新谷広治氏が第2代PTA会長に就任され、いよいよこの年、待望の第1期工事<sup>328</sup>坪の本建築が落成した。

「常中通信」第5号に当時の喜びが次のように記されている。

「新校舎へ：独立校舎へ 2年半の間、生徒と先生方が胸に描いた楽しい夢がいよいよ実現する日がまいりました。昭和24年、文化の日がその日です。落成式に先立って10月28日には朝早くから生徒の机、腰掛けを始め、校具一切の引っ越しをしました。貧しいながらも2年半の間にできた校具はかなりの量になりました。父兄の中から数台の馬車の応援も受けました。29日には仮校舎からの移転式、小学校の校庭で小学校の児童と離別の挨拶を交わし、村役場へ寄って村長さんにお礼を述べて、日の丸の国旗を先頭に市街を行進し、新しい中学校の校門を入った時の感激！」

11月3日は落成式、木の香りも新しい2教室通しの講堂で、田んぼみえるような菊の艶姿、その中から流れる「君が代」のメロディーは、終戦後初めて味わう民族的な感激であったと、式後多くの来賓や父兄から語られた言葉でした。お祝いの紅白のまんじゅうも生徒たちにとっては戦後初めての喜びであったでしょう。祝賀宴は遠来の来賓も交えて満場あふれる盛会でした。

3日から5日にまたがる展覧会、学芸会、音楽界など多彩な催しものは、生徒・教師・父兄3者の感激の交錯、歓喜の爆発でした。PTA婦人部で担当してくださったバザーの食堂は3日間大満員の盛況でした。（略）

\*注：「常呂中学校二十年のあゆみ」年表から

昭和22年4月1日	常呂村立常呂中学校として開校
	常呂小学校校舎の一部を借用し、仮授業を開始
5月12日	政井三郎初代校長着任
6月17日	常呂中学校PTA設立（初代会長・松平慶顕氏）
6月22日	常呂小学校と合同で第1回運動会を開催
7月23日	校章制定
7月25日	開校記念式典挙行
9月20日	第1回校内マラソン大会開催
9月28日	初めて村内中学校陸上競技大会開催
11月16日	常呂市街栄町に村費で校長仮住宅新築
11月30日	常呂小学校と合同で第1回学芸会開催
昭和23年2月15日	神社山において第1回スキー大会開催
3月19日	第1回卒業式挙行、常呂中学校同窓会設立
4月1日	5学級編成認可
10月30日	通学区域父兄の寄付金で栄町に教員住宅2棟4戸新築
12月4日	学校参観日開催
昭和24年3月3日	「母の集いの日」開催
4月1日	6学級編成認可
5月24日	村議会で常呂中学校独立校舎建築可決
7月6日	3年生が札幌方面へ初修学旅行
10月28日	独立校舎新築落成
11月3日	新校舎落成式挙行
昭和25年4月10日	常呂中学校生徒会設立
5月19日	グラウンド完成
7月18日	常呂港起工式、全生徒旗行列に参加
8月13日	第1方面中学校排球大会に初参加
9月23日	第1方面中学校陸上競技大会本校で開催
9月30日	普通教室1教室増築落成
11月1日	町制施行により常呂町立常呂中学校と名称改称
11月20日	町制施行祝賀旗行列に参加
11月25日	校舎敷地東側に校長住宅新築落成

\*注：常呂中学校開校時の生徒／三浦俊雄が同記念誌に「創立記念によせて」という文で、  
校舎新築・引越し作業の思い出を書いている部分を紹介

（略）私たちが6年を終えた時、新制中学の制度ができ、1年に入学した当時は校舎とてなく、小学校の運動場を仕切り、仮校舎での勉強であった。せまい廊下での朝礼、戦後で物資も不足、教材教具もない中でけっこう楽しい毎日であり、今も職業の時間に教わった砥石の使い方とか納豆の作り方などを思い出し、丸顔の先生の顔が浮かんでくる。

待望の校舎が新築されたのは3年の秋の終わりの頃、夏休みを返上して草藪の整地、道

端に下ろしてある材木の運搬、流れる汗と肩に食い込む角材の重さ、新しい学舎の建つ喜びに皆の心が一つとなって動いていた。

やがて校舎が完成、机の運搬、今のようにトラックなどはなく、小学校から中学校までそれぞれ自分たちで何度運んだことか。新しい廊下の床磨きも毎日の日課でした。

その校舎も運動場はなく、正面玄関のところ毎朝廊下に3方に並んで朝会をし、行事の時は教室2つを続けて使ったものでした。また、廊下では卓球に興じたものでした。

新校舎にはたった5ヶ月しか通学することができずに卒業となったが、楽しい思い出が一番多かったと思う、(略)

\*注：常呂中学校開校時の教諭／丸田実が同記念誌に「常中懐古漫録」という文で、

新校舎移転・床磨きの思い出を書いてある部分を紹介

(略) 昭和24年11月3日、新校舎に移転。当時、管内でも5本の指に入るといわれた新校舎。生徒も新校舎ということに大きな喜びと同時に緊張感を覚えた。特に玄関口に近い1年A組(第5回卒業)の諸君は、玄関口であるがゆえに1番きれいにしようと連日豆腐のおからで床磨きをした(略)